

事業報告書（令和7年度）

事業名 無料塾の展開

団体名 一般社団法人岡山ももたろう義塾 担当者名 山崎和弘

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

中学生中クラス授業

- ・実施日：2025年7月7, 14, 22, 25、8月21, 22、9月8, 22, 29, 10月6, 20, 30, 10月10, 17, 24, 25, 12月1, 8, 15、2026年1月19, 29, 2月2, 8, 9, 16、23, 26
- ・実施場所：妹尾公民館
- ・講師：山崎和弘
- ・対象生徒数5名
- ・対象科目：英語と数学



中学年生クラス個別授業

- ・実施日：2026年1月25, 2月17, 22, 25
- ・実施場所：妹尾公民館
- ・講師：山崎和弘
- ・対象生徒数3名
- ・対象科目：数学
- ・実施場所：妹尾公民館

中学年生個別クラス授業

- ・実施日：7月6, 21、9月7, 21, 28, 10月4, 17, 19、25, 11月9, 16, 22、30、12月7, 14日
- ・実施場所：私個人のアパート（男子生徒1名のため）
- ・講師：山崎和弘
- ・対象生徒数1名
- ・対象科目：英語と数学



中学年生小クラス授業

- ・実施日：2026年1月11, 18, 25, 2月1, 8, 15, 21, 22, 28日
- ・実施場所：妹尾公民館
- ・講師：川相厚雄
- ・対象生徒数2名
- ・対象科目：英語と数学

2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

貧困家庭においてはご両親も勉強の方法をご存じなく、塾において、生徒に対して毎日の学習習慣を身に付けることと具体的な目標を持つことの重要性について常に意識づけをおこなった。数名は、学校の授業についていけなかった生徒もいたが、成績が上がるにつれ成功体験と自信をつけて。学習することについて楽しさを覚えた。次の成長につながるきっかけとなると良いと思う、

② どのように学び合いを取り入れたか

県立城東高校がボランティアで個別指導のために来訪時され、担当の先生および生徒から高校での英語教育の力点の変化等についてお話を聞き、ヒアリングとスピーキングまた、考える力の育成についての重要性が強まっていることについて再認識、授業の中に取り入れた。



③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

塾の一番重要な目的は調節的には具体的には成績を上げることであるが、特に、低学年では楽しく学んでもらうこと重要だと考えており、夏季休暇、冬期休暇（Xmas 授業）中はイベントも含めた半日集中授業等も行った。

毎回、英語と数学については単語と計算の宿題等を出し毎回しっかりとやってきた生徒には少額の図書券等の報償等を行い、努力を続けるプロセスが重要なことを伝え、実践



した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

生徒の中にはシングルマザーのご家庭、片親が病気、祖父母の介護が必要な両親等様々な理由で経済的に困窮して、日ごろの子供の生活に関与できず、また、子供がもっと勉強したくても塾に通わせる経済的な余裕のないが家庭の子供たちに、自分自身で将来を切り開くための機会ときっかけ（目標、知識、気付いていない潜在能力）を提供できていることに大きなやりがいを感じています。

もちろん全員ではないが、①半年で数学の成績が 30 点から 70 点になり、数学は得意になって自分自身にたいして自信をもった生徒、②入塾の条件として毎日 2 時間勉強することを守って勉強を続けてそれまでは 50-60 点の平均点前後の成績でしたが両科目とも 80 点以上取れるようになった生徒等が出ており、子供たちの将来の飛躍のきっかけになればとかがえています。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

東京で有名な「八王子つばめ塾」等の経営者の方々からいただいた無料塾の運営に関する様々なアドバイスをもとに事前に計画を立てて岡山において無料塾を開設したが、首都圏とは全く異なる環境下で、まず。第一には無料ボランティアが全く集まらない、塾の運営資金となる寄付金と支援金等も集まらない等の大きなギャップがあった。塾は開設してまだ 1 年半なので、地道に成果を出しながら口コミでの広報活動と大きな広がりのある媒体（TV）を活用しながら広報活動をして、岡山の持続的な経済。文化の発展のために必要な存在であるとの認知をしてもことが大切であると認識している。また、持続的な仕組みとして残していくためには後継者の発見と育成が喫緊の課題であると認識している。